

産学公連携による農作業着モンペッコとツナギッコの商品開発 － アグリアート・フェスティバル2016を事例として －

Product Development of Farmer' s Workwear called “Mompeikko” and
“Tsunagikko” through Industry-University-Government Collaboration
－ A Case Study of Agri-Arts Festival 2016 －

水谷由美子* 小田玲子** 荒木麻耶***

Yumiko MIZUTANI* Reiko ODA** Maya ARAKI***

Resume

This paper focuses on activities to promote Regional Creation from the field of fashion design. For three years from 2013 to this year, the team of Laboratory of Fashion Design and Planning at Yamaguchi Prefectural University has done fieldwork on Yuya, Nagato City, working on the branding of the rice terraces of Higashi Ushirobatake, which was selected as one of the Top100 Terraced Paddy Fields on Japan.

At the same time, through joint research with Akie Abe (wife of Prime Minister Shinzo Abe) to create the mompeikko (Japanese cotton working pants for women) label “Nou-Girl” (Agriculture Girls) Collection, we announced the products Mompeikko and Tsunagikko 2016 at the Agri-Arts Festival 2016.

In reference to the traditions of Yanai-jima stripes and Kuga-chijimi stripes, which are regional resources, we have developed Yamaguchi-jima takijima, and we added improvements on the pattern of the Mompeikko 2015. We experimentally sold Mompeikko and Salopekko at some places in Yamaguchi Prefecture and on the internet as well.

In addition to the stores of Naru Naxeve itself, it is saled at seven stores in Yamaguchi prefecture, through the mail order of newspaper companies and mail order sales of Naru Naxeve, thus Mompeikko has spread to people. Because its material is woven from yarn, it is highly original. In order to monitor the expression of design, patterns and details, we visited shops in the prefecture, etc., collected the opinions of users and repeatedly devised ingenuity.

Depending on the design, fabric and pattern, vintage for each year is born. Mompeikko's Fans are coming out and it is getting used not only for farm work but also for sports such as yoga and everyday wear.

キーワード：服飾デザイン モンペッコ 農作業着 持続可能な社会 サービスデザイン

Key words : Clothing Design Mompeikko Farmer' s Workwear Sustainable Society Service Design

*山口県立大学大学院国際文化学研究所教授

*Professor of Graduate School of Intercultural Studies in Yamaguchi Prefectural University

**山口県立大学大学院国際文化学研究所2年

**2nd grade of Graduate School of Intercultural Studies in Yamaguchi Prefectural University

***山口県立大学大学院国際文化学研究所1年

***1st grade of Graduate School of Intercultural Studies in Yamaguchi Prefectural University

1 研究目的

2013年から農作業着の開発を開始した。動機は、2011年に起きた東日本大震災をきっかけに農業を始めた安倍昭恵内閣総理大臣安倍晋三夫人が、若者が着る農作業がないことに気づき、研究代表である水谷に共同開発を提案したことであった。2013年から開発研究を始め、2014年から農作業着の商品開発と販売実験を開始した。

基本的には、まず生地をオリジナルで織ることから始めた。一般の若者に着用されるためには、コスト面でも実現可能なものを作る必要があった。

企画デザイン研究室では、2005年の柳井縞復興10周年記念ファッションショーで水谷が企画演出運営に関わったことをきっかけに、活性化に向けた活動を継続してきた。柳井縞の着物、ドレス及び小物などを、ラップランド大学との国際共同研究や本学でのファッションショーで使うなど、大切な地域素材として利用している。

縞織は山口県に固有というよりも、全国に広がっている伝統的な織物である。単純な構造であるために、地域の個性ははっきりしておらず、柳井縞の藍色糸を基調にした伝統的な縞織も特に柳井固有の縞として同定することは難しいのが現状である。

しかしながら、縞織の日本の伝統を継承していくためにも、現代的な取り組みを通じて、柳井縞の伝統に人々の関心を向けるということが大切ではないかと考えている。

そこで、現実的に人々が手にしやすいコストでの農作業着を作るために、機械織でオリジナルの生地を、アグリアート・フェスティバル2014から開発してきた。この新種のモンベッコについて、モンベッコから転じて「モンベッコ」と名付けた。

現状では山口県内には織物工場がないため、久留米緋の里（大刀洗）にて3年間に渡ってオリジナルの布がそこで織られている。

本論では、アグリアート・フェスティバル2016における農ガールコレクション「自然との対話」において発表した「やまぐち縞cosmo2016」「モンベッコ2016」そしていわゆるツナギから発想した新しいタイプの形式である「ツナギッコ」についての開発のプロセスと結果について検証することを目的としている。

2 研究方法

アグリアート・フェスティバル2016は「アグリアート・フェスティバル2016実行委員会」が主催で、その

主な構成員は長門市（大西倉雄市長）と山口県立大学（江里健輔理事長）企画デザイン研究室（水谷由美子担当）そして安倍昭恵グループである。さらに東芝国際交流財団、各種企業そして個人が協賛をして成立した。さらに農ガールコレクションは水谷率いる山口県立大学企画デザイン研究室と安倍昭恵夫人が共同研究で開発し、プロダクト面では以下に記す、多くの企業がコラボレーションの仲間として参加した。

今回のテーマ「自然との対話」に沿って新しいやまぐち縞の具体的なテーマ設定を行った。そこで、古代より現代まで自然界や伝統文化を規定してきたコスモロジーである「陰陽五行思想」に着想を得た。

中国古代哲学である陰陽五行思想では各方位と季節、色や素材などが体系化されている。そこで、各方位に沿った5色と5色を同一の生地に取り入れた生地を含め、全6色展開のモンベッコを開発する計画を立てた。

経糸は柳井縞に特徴的な藍染めされた糸、緯糸には5種類の「青（緑）」「赤」「黄」「白」「黒」そしてこの5色がすべて同一の生地に戻される生地のアイデアを考案し、織物のデザインコンセプトとした。水谷がコンセプトを、具体的なデザインを荒木麻耶が行った。織のプロデュースは合資会社ロォーリングが担当した。

また企業の協力を得て織物や縫製等が行われた。まさに、産学公連携にて商品開発が行われた。

モンベッコのプロダクトは山口県発のプロダクトブランド「匠山泊」（岡部泰民・岡部隆則共同代表）に依頼し、共同開発を実施した。代表的なモンベッコのユーザーであるペルソナの設定は、毎年検討し若干の変更を加えている。それ故にパターンや縫製などのプロダクトにも工夫を加えている。本論でそれらの詳細を検証することにする。

普及するためのマーケティングや販売については、山口県立大学発ベンチャー企業の有限会社ナルナセバが担当している。ここには水谷研究室のサテライト研究室が設置されており、学部生と大学院生が、週末に店番を担当して、販売やマーケティングの実践的研究を実施し、そこから得られた情報を、毎年のモンベッコ開発にフィードバックをしている。

本年度は、オーバーオール形式の「ツナギッコ」を新しく商品開発した。生地については、昨年開発したサロペット形式の「サロベッコ」はモンベッコ用に開発したやまぐち縞takijimaを用いたが、今年度は柳井縞の会とのコラボレーションを考えていたので、山口県で地域資源として認定されているデニム加工と組み

合わせた「デニム×柳井縞」を企画コンセプトにした。

ツナギッコは農ガールをイメージさせるような、若者が着たくなるものを目指しているが、イメージモデルは安倍昭恵夫人のような中年とした。なぜなら、今までのマーケティングから考えると、日本で少量生産するために、コストがどうしても高くなり、対象が経済力のある大人の女性という設定にならざるを得ないからである。

コンセプトとデザインは水谷が、デザインとモデリングは小田が担当した。今回使用する柳井縞は、柳井縞の会とのコラボレーションとして企画し、会長の石田忠男が織を担当した。プロダクトは上記と同様の匠山泊が担当した。

以下では、商品開発のコンセプトからデザイン、そして製造の過程について検証し、今回の商品開発について明らかにする。

3章ではモンペッコやまぐち縞cosmo2016とやまぐち縞cosmo2016の布地の開発について荒木麻耶が、さらに4章ではツナギッコについて小田玲子が、水谷由美子とそれぞれ共同執筆することとする。

3 やまぐち縞とモンペッコの開発・改良

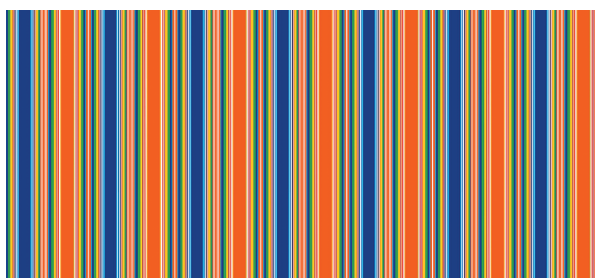
(1) やまぐち縞の開発

1) やまぐち縞2014-2016のコンセプト

やまぐち縞raita2014、やまぐち縞takijima2015に引き続き、オリジナルの縞の開発は3年目となる。

オリジナルの縞として最初に開発したやまぐち縞raita2014は、山口県の伝統の織物である柳井縞・玖珂縞に加えて、2000年頃からフィンランドの諸機関との研究創作を継続してきたこともあり、フィンランドの民族衣装に見られる縞幅のバランスや色調を取り入れている（資料1）。

2年目のやまぐち縞takijima2015は、暑い夏に目でも涼をとるという日本人の知恵が表現されている日本伝統の滝縞と、自然界の数比例「フィボナッチ数列」を掛け合わせ、美しさと涼しさを融合した縞としてデザインされている（資料2）。



資料1 やまぐち縞raita2014



資料2 やまぐち縞takijima2015



資料3 やまぐち縞cosmo2016

2) やまぐち縞cosmo2016のコンセプト

今回は、古代より続く、自然界や伝統文化を規定してきた「陰陽五行思想」に着想を得て、やまぐち縞cosmo2016を開発した（資料3）。

陰陽五行思想は陰陽思想と五行が結びつき、紀元前3世紀初めごろ成立し、5、6世紀に仏教・儒教や暦法とともに中国から伝来したとされている。五行の思想において、自然界は、木（もく）・火（か）・土（ど）・金（ごん）・水（すい）の5つの要素から成り立っているという考え方がある。5つの要素が循環することによって、万物が生成され、自然界が構成される。これらの五行の5つの要素は、季節や方位、色彩、臓器などがそれぞれ配当されている。木には青、火には赤、土には黄、金には白、水には黒が当てられている。これより、縞糸には5色の「青」「赤」「黄」「白」「黒」を基調とした。そして、この5色を3cmピッチで同一の生地に繰り返すという、新たな挑戦も行った。

木に配当された青色は、日本において古代以来、現代でいう青色と緑色の差異がなかった。それは、かつて日本語において「青（あを）」は非常に広い範囲の色を指し、古典語の「あを」は現代語の「藍、緑、青」などの色を全て示しているからである。そのため、今回は、「青」はあえて緑色と青色の2色を採用し、青色、緑色、赤色、黄色、白色、黒色、5色（ここでは緑色の糸を使用）を同一の生地に取り入れ計7色展開で開発した。

日本の伝統的な縞模様の特徴として、経糸には藍色

の糸が使われていることが多い。山口で栄えた柳井編の見本帳にある織サンプルの多くが藍色を基調としている。そこで、やまぐち編cosmo2016は藍色の糸を経糸として採用した。編織物が伝統として受け継がれ続けてほしいという願いから、経糸には藍色のほかに、未来を指し示す白色を取り入れた。

やまぐち編cosmo2016は経糸が藍色と白色の2色で構成され、これまでのやまぐち編と比較すると、単純な編柄である。細いラインを1、太いラインを2という比で形成し、藍色から始まり、藍色を白色で挟んだ編が6ライン続いた後で、白色で区切り、これをリピートさせた。

陰陽五行思想から緯糸を選び、経糸には世界平和の意味を込めて、世界にある6大陸の6を意識的に表現に取り入れた。

3) やまぐち編の共創

編のパターンとして、やまぐち編raita2014は、経糸に複数の糸色を採用し、複雑な切り替えを行っている。やまぐち編takijima2015は、フィボナッチ数列を掛け合わせており、経糸は藍色、水色、白色の3色を用いるため、やまぐち編raita2014に比べると、大柄なパターンであった。

生地のパターンをデザインする際は、デザインを考えるデザイナー中心で決めるのではなく、モンペッコを取り巻くステークホルダーの意見を収集し、パターンに落とし込むようにした。やまぐち編takijima2015は日本伝統の滝編を取り入れた結果、爽やかで、涼しさを感じるため、モンペッコを販売している店舗やバイヤーにとっては、春夏の採用となり、秋冬では取り扱にくいとの意見が上がった。

また、プロダクトにおいては、幅の広い編柄は、柄合わせのために、生地の裁断で慎重に作業しなければならず、手間がかかりすぎてしまうことや、裁断した際に、無駄な生地が多く出てしまうという問題点があった。通常であれば、裁断の際に出た不必要な生地は廃棄処分されるのであるが、ゴミを少しでもなくしたいという要望から、それらの生地は捨てることなく、手ぬぐいの一部に使用することで、小物商品へ利用した。

布の切れ端を利用する際にも、幅の広い編柄は、切り取られた部分によっては、編柄に見えづらくなってしまふ可能性があるため、選別する必要がある。モンペッコのように生地を大きく使用する際には、編として認知することは困難ではないが、モンペッコ以外の小物商品へやまぐち編を取り入れる際には、大きな幅

の編柄は、取り扱いが容易でないことも判明した。

その点、幅の狭い編柄は、柄合わせや小物商品への利用は弊害がない。しかし、細かすぎる編柄は、織職人が機械に経糸を組む際に、複雑すぎて、手間がかかりすぎるといった難点があり、一長一短である。

モンペッコやまぐち編raita2014、モンペッコやまぐち編takijima2015はともに、20代から80代という幅広い年齢層に支持を得た。しかし、やまぐち編raita2014に比べ、やまぐち編takijima2015は、年配のユーザーにとっては、柄が若い人向きではないかと心配する声も少なからずあった。

ステークホルダーであるバイヤーやプロダクトブランドの「匠山泊」、織をプロデュースする「ロォーリング」、ユーザーらの意見を参考にしながら、やまぐち編cosmo2016のデザインを「共創」した。

4) 織へのこだわりと挑戦

生地については、農作業などの作業も考えると、丈夫に仕上がるように、経糸は双糸（2本の撚糸）を使い、緯糸は単糸で織った。経糸で使用している白糸は、わずかに黄色を帯びたような白に見える。これは、蛍光染料を使用していないからであり、環境にも配慮をしている。

今回の新たな挑戦として、5色を同一の生地とした「cosmoファイブ」は3cmごとに緯糸を換えて織っている。そのため、糸のテンションの違いで、柄（糸色）の継ぎ目で、パッカリングが起きてしまうなどの問題が発生した。パッカリングとは、生地の織り組織が引きつれることによって発生する現象である。しかし、幾度かの試し織りの結果、それらの問題を乗り越え、「cosmoファイブ」を完成することができた。これまでのやまぐち編の生地における緯糸は、単色のみの展開であったが、5色の糸色を緯糸として織りなすことは、織職人にとっても、初めての挑戦であった（写真1）。

(2) モンペッコのパターンの改良

1) 2014—2015モンペッコのパターンの特徴

2014年に発表したモンペッコやまぐち編raita2014のパターンは、農作業での使用を重視し、生地を断つ際に捨てられがちな残りの生地を有効活用して、ヒップと膝の裏側に力布用の当て布として取り入れ、丈夫さを付与した（写真2）。

モンペッコやまぐち編takijima2015は、モンペッコの浸透を目的に、農作業着のみならず、街着としての着用を考慮し、モンペッコ2014モデルよりもシルエット



写真1 モンペッコcosmoファイブ



写真3 モンペッコやまぐち縞takijima2015



写真2 モンペッコやまぐち縞raita2014



写真4 モンペッコやまぐち縞cosmo2016

トを細くし、膝当てなどの力布をなくすことで、ヨガウェアや散歩着としても浸透することを目的として制作した(写真3)。

2) モンペッコやまぐち縞cosmo2016のコンセプト

モンペッコやまぐち縞cosmo2016は、農作業着と日常着の両面性を確立させつつ、幅広い年齢層に対応するように意図して、モンペッコ2015モデルのパターンを改良し、腰回りにゆとりをもたせ、膝から足首にかけてもワイドなシルエットにした。また、モンペは本来、袴の形状を簡易にしたパターンから考案していることや反物を使い切る構想で作られてきたという特徴

がある。以上のようなモンペの伝統的構成を継承するという点において、これまで通り、脇は直線立ちにした。モンペッコ2014は若い女性にとって腰回りにゆとりがありすぎるといふ点とモンペッコ2015は年配の方やふくよかな女性にとっては、シルエットが細すぎるなどの点についての意見があり、それらを考慮して以下のように具体的なパターンや構成に関するディテールにおいて改良をした(写真4)。

3) モンペッコの改良点

裾をたくし上げて農作業を行ったり、穿きこなししたりする際には、従来のモンペッコよりも容易に裾を上

げられるように、モンベッコ2015モデルよりゴムの断ち切り寸を2cm長くすることにした。

ウエストと裾のゴム跡が肌についてしまうというユーザーの意見から、ゴムの裁ち切り寸を長くしたほか、ウエストについては2.5cmから3.5cm幅のゴムを採用することとした。

農作業の過程において、日常生活より屈むことが多いため、屈んだ時に腰部分の肌の露出がないように配慮した。それに加えて、右前上部のポケットにスマートフォンなどを入れたときに、足の付け根部分に引っかかって、動作に影響を与えないように、これまでつけてきたポケット位置から1cmほど下げた。

縫製においては、脇と後ろ股ぐりを巻縫いで処理することにした。ロックミシンをかけて倒すよりも、丈夫に仕上がりに、穿いた時に、処理部分が肌に当たらず、快適に過ごすことができる。その結果、質の高い縫製処理に仕上げられ、品のあるモンベッコが作り上げられた。

モンベッコ2015モデル同様、ユーザーが裾のゴムを自由に取り出せるよう、内側に1cm程度の空きを作った。ゴムを抜いて着用する際に、ロールアップなどをして着こなすことも視野に入れ、膝下から裾にかけて無理なく、ストレートになるようパターンを改良した。

サイズに関しては、モンベッコを穿きたいという男性も多くいたため、M、LにXLを加えて3サイズ展開にした。男女共用のため、ユーザーの身長と胴のサイズを考慮し、身長はMサイズでは156～164cm、Lサイズでは162～170cm、XLサイズでは168～176cmに設定した。このサイズは日本の成人男性および女性の平均身長に対応している（写真5）。



写真5 モンベッコやまぐち縞cosmo2016男性モデル着用

(3) 結論

3年目となるやまぐち縞の開発、モンベッコの改良のための意見徴収に、モンベッコを購入する立場の人だけでなく、バイヤーや織物プロデューサーやプロダクトプロデューサーを手掛ける人々、そして、モンベッコを販売している店舗にも足を運び、現状のリサーチを行った。新しいモンベッコを開発するにはどのようなものがいいかなど、意見を抽出した。立場の異なるステークホルダーの思いを取り込むことは、決して容易ではなかった。

そこで、ステークホルダーを一挙に同じ空間に集め、サービスデザインの手法として、山口県立大学独自のSPS (service design prototyping system) を使い、意見の共有や抽出を行おうと考えた。しかし、異なる地域に居住し、異なる分野で活動しているため、限られた時間の中で、一同に集めるのは不可能であった。その結果、それぞれのステークホルダーの店舗や職場を別日に訪れ、意見の徴収する必要が出てきた。

筆者は、モンベッコやまぐち縞cosmo2016を着用して、農作業を実践していないため、これから実証実験に移る必要がある。また、販売に関しては、パッケージデザインやレイアウトなどに着手できていないという課題が残っている。これまでのマーケティングや市場調査を考慮し、パッケージデザインなどの販売の方法にも力を注いでいきたい。

4 ツナギッコの開発

(1) ツナギッコ開発の背景

企画デザイン研究室では、3年前から有限会社ナルナセバ及び長門市からの受託研究としてmompekkolレーベルの農作業着の商品開発に取り組んできたが、ツナギを作りたいという考えが当初よりあった。そこで、小田玲子と水谷由美子が共同研究の形で取り組むことになった。

水谷は主にコンセプトとデザインディレクションを、小田はデザインとモデリングを担当した。

ツナギッコの基本コンセプトは次の通りである。

(2) デザインコンセプトとペルソナの条件

ここではペルソナ（代表的なユーザーの人物像）について詳細には示さないが、イメージモデルとしては、ファッションショーのモデルをお願いした安倍昭恵夫人のような中年女性に設定した。それは、モンベッコのユーザーが比較的年齢が高いことにも関係している。

つまり、日本製で少量のオリジナル製産はコストが

高くなるために、こだわりが強い20代から30代の若者で経済的自立をしている人が経済的に余裕のある40代以上の方がユーザーの対象となる。

具体的に言うと、実際に農業を志す女性あるいはガーデニングをする女性、また街着としてスポーティブでカジュアルなイメージでコーディネートする女性など、自然派でありながら、行動的生活を送っている女性である。

そこで、デザインにはエレガントな要素とカジュアルな要素を取り入れたワークウェアで、労働のための機能性も表現するものをコンセプトとした。

一方、男性にとっても従来のいかにも仕事着というだけでなく、6次産業の時に少し注目されるようなおしゃれ感がアピールできるようなものを目指した。

(3) 素材について

企画デザイン研究室の基本コンセプトとして、地域資源の活用に取り組んでいるため、加工技術が地域資源として認定されているデニムと柳井縞を素材として使用する。「柳井縞の会」、匠山泊、有限会社ナルナセバと企画デザイン研究室のコラボレーションとする。

(4) 用途

一般的なツナギは基本的にユニセックスであるが、主なユーザーは男性である。そこで、農ガールコレクションとして農作業着用のツナギを開発するにあたり、女性が着用しても自然な感じで着られることを目指す。

また、コーディネートによっては街着としても成立するデザインにすること。カジュアルでいてエレガントなイメージを表現すること。

着心地が自然でやさしいイメージが感じられる、ゆったりと楽な着心地感が得られるものにする。

(5) サイズ展開

サイズはメンズMとレディースL相当を中心にプロトタイプを開発し、様々な体型に対応できるサイズを考え、ユニセックスのMとLの2種類を開発することにした。Mは身長が155cmから170cm程度の男女、Lは165cmから180cm程度の男女で設定をする。

以上のコンセプトや条件をスタートに、研究を開始した。

(6) ツナギッコの制作目的

1) 山口の地域素材であるデニムと柳井縞を使った商品を開発することで、地域素材を広く世に知らしめ、

コラボレーションをしている組織のそれぞれの活動の価値に相乗効果を持たせる。

2) より多くの人に受け入れられるデザインの追求を目指す。

3) ゼロウエストの考え方を取り入れた、無駄の少ないパターンを考えることで、持続可能な社会に貢献できる商品開発を目指す。

(7) ツナギッコの制作のプロセス

次に、ツナギッコの制作プロセスを記す。

1) ツナギ、サロベット、オーバーオール、オールインワンなど、上下がつながっているタイプの服の資料を収集し、最近の傾向やニーズをつかむ。

2) ツナギッコのベルソナとコンセプトを決める。

3) ツナギッコのプロデュースやプロダクトに関するコラボレーションの関係についての基本方針を固める。プロダクトは匠山泊に依頼し、プロデュースは有限会社ナルナセバが実施することにする。

4) デザインについて提案する。

5) 上記2社の担当者と何度も開発会議を重ね、カラー、素材と素材加工、資材、サイズ、製造、値段設定、プレゼンテーションの日時と方法、販売方法などについて議論する。

6) ツナギッコの試作として9号のパターンをおこし、型紙を作る。

7) シーティングでファーストモデルを作り、10人程度の男女に試着を依頼しフィッティングをする。

8) 試着で気づいた問題点をもとに、型紙を作り直す。

9) 柳井縞の織元にオリジナルの縞の製作を依頼する。縞のコンセプトとしては、山口は3方が海に開かれていることから、海の色（青（藍））、太陽の赤、空の雲の白という単純な自然の恵みをキーカラーとした。そこで、経糸はキーカラーの藍、赤、白で構成し、緯糸は実験的に赤と白の半分ずつで織るよう依頼する（写真6）。詳細なデザインは織り手のセン

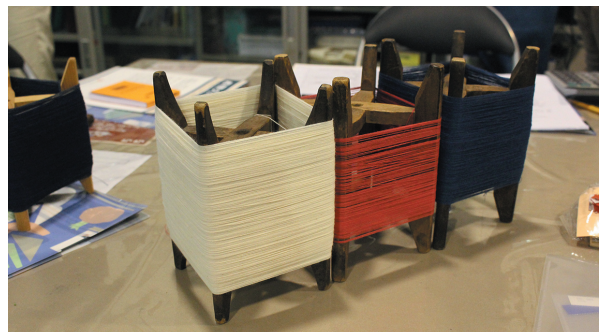


写真6 柳井縞糸

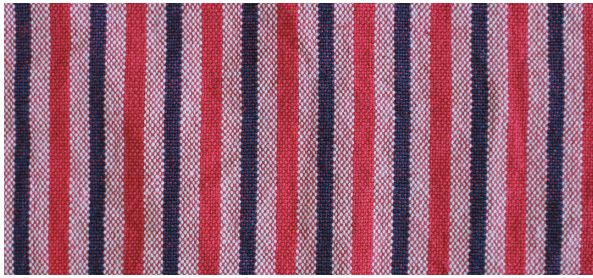


写真7 柳井織

スに委ねることとした。実際の織りは柳井織の会の会長、石田忠男が担当した（写真7）。

- 10) シーチングによるセカンドモデルの試着を10人程度の男女に依頼。再度フィッティングを行う。
- 11) 試着で気づいた問題点をもとに、再度型紙を作り直す。
- 12) 仕上がりのイメージを確認するため、実物に近いデニムでモデル作成し、着心地や色や質感を検証する。
- 13) セカンドモデルをサンプルとして、モデリング・製造工程・素材の最終確認、デニム加工（バイオ加工による色落としと収縮）、柳井織加工（洗いによる収縮）、資材（ファスナー、糸など）などについての話し合いを元に、販売コストと加工などに関する値段などの交渉をする。
- 14) デニム、ファスナー、糸などの決定をし、資材の注文をする。
- 15) これまでの情報をもとにプロダクト・パターンを作成する。
- 16) 仕様書を作成する。
- 17) 柳井織を小さくカットし、水につけて伸縮率を調べる。
- 18) 縫製工場が実際のデニム生地を使い、試作モデルを作る。
- 19) 試作モデルを10人以上の男女に試着を依頼してサイズの検証をする。
- 20) 試作モデルでデニムの洗い加工及びバイオ加工により収縮と色落ちをさせる。
- 21) 収縮した試作モデルについて、再度、10名程度の男女に試着を依頼する。
- 22) 上記の情報をもとにサイズ展開を決定し、部分的な細かい寸法についても決定する。
- 23) MサイズとLサイズの正確な型紙を作成する。
- 24) デニムでMサイズとLサイズのプロトタイプを作る。
- 25) プロトタイプをぬるま湯で洗い、糊を落とす。
- 26) 水通したプロトタイプの試着を各サイズの代表的

モデルに依頼し、伸縮率を中心に検証する。

27) 最終的な仕様書を作成する。

28) 縫製工場に発注をかける（Mサイズ40着・Lサイズ40着）。レーベル名として「mompeikko」と「匠山泊」のダブルネームを付け、洗濯表記など取り扱い布を縫う依頼をする。

29) 縫製工場で縫製後、専門業者にバイオ加工を依頼。

30) 縫製工場でアイロンがけされ、最終仕上げの後、納品される。

（8）ツナギッコの開発の実際

1) デザインが決まるまでの思考

当初考えていたデザイン（ファーストモデル）は、胸ポケットが二つとカーゴパンツのようなポケットが二つついたものであった（写真8）。屈んだ時、窮屈さを感じさせないよう、肩に伸縮性のある生地をはさみ、ウエストはゴム仕様にした。ズボンの裾にはゴムを入れ、虫が入ってこないようにした。理由は農作業着としての機能を優先したためである。

農作業として売り出す場合、値段設定をどうするかが問題となる。今までの経験上、値段設定が二万円程度になるだろうということは予想がついていた。二万円の農作業着を購入するユーザーはどのような人かという問いをしながら、開発を行った。通販で作業用のツナギは5千円程度で購入できる。

それ故に、作業着だけに用途を絞るのではなく、6次産業や買い物等街着としても着られるような付加価値をデザインで表現する必要がある。

素材にこだわって作られている一般のツナギは一万



写真8 ツナギッコファーストモデル

円程度で手に入るため、国産の価値が十分発揮され、個性的なディテールにも考慮した。

基本的にはデニム素材なので持続可能な服としてユーザーが長年着用し、穴が開いたり、擦り切れても味が出て来たりすることは、一般の綿のツナギでは表現できない。

そこで、匠山泊との協議の結果、カイハラ株式会社（福知山市）の高級なデニムを使用し、一定の洗い加工によって、デニムに個性的な表情を表現する計画を立てた。

ペルソナは、前述したように比較的年齢が高い上品な女性にした。これまでに開発してきたモンペッコやサロベッコなどの商品の主な購買層は、30代から70代の中老年層の女性が多い。最近では有限会社ナルナセバがオンライン販売を手がけるようになったことや新聞などのメディアへの露出の影響もあって、男性のユーザーも増えてはいるが、圧倒的に女性ユーザーが多い。したがって、ユニセックスデザインとしつつも、主なユーザーは女性としてデザインすることにした。

ウエストラインをどうするかは大きな課題であった。最初はゴム仕様を考えていたが、作業着のイメージが強くなり、オシャレ感が薄れるので、ゴムなしにした。ツナギをよく着る男性に聞いたところ、ツナギはベルトなしで着る場合が大半であった。しかし、女性はウエストをマークした方が良いという意見が多かったので、リボン状の紐をつけることにした。

Mサイズのファーストプロトタイプで、176cmのやせた男性が紐もベルトもつけずに着用すれば、Mサイズがぴったり入ることがわかった。女性は紐でブラウジングして着用し、男性は紐無しで着用すれば、幅広い身長の人に対応できることが10名程度の試着でわかった。胴囲が大きい人の場合には、身長がなくても、Lサイズで対応できる。

紐を通すウエストラインには傾斜をつけ、飾りステッチやベルトループを配し、横から見た時にシャープなラインが出るよう工夫した。

サイドポケットはファーストモデルよりやや高めにし、女性が楽に手が入る位置にした。片方のみ、柳井縞をワンポイント使いで配し、デザインのアクセントにした。

モンペッコやサロベッコのユーザーの中には、オシャレ感を高めるために、裾のゴムを取る人もいれば、ゴムの締め付け感を嫌って取る人もいる。ツナギッコはオシャレ感を優先するために、ゴムを裾に使用しない方針にした。

ただし、昨年のミラノのストリート・ファッションではポリエステル生地、ゆったりしたモンベ型で裾にゴムが入っている姿が多く見られ、モードではある。しかし、バランスを優先してツナギッコにはゴムを採用しないことで決定した。こうして基本的なデザインの条件は整った。

2) ゼロウエストの工夫

ゼロウエストは、無駄ゼロという意味である。つまり、残り布あるいはゴミを出さないあるいは再利用をするなど、現在、ファッション界では多くのブランドが取り組んでいるテーマでもある。

ツナギッコを一般のユーザーに手に取ってもらうには、製造費を安く抑える必要がある。そのためには、無駄を減らす工夫が欠かせない。

少し体にコンシャスにしてエレガントさや女性らしさを表現するという課題を実現しつつも、ゼロウエストの精神を反映させるため、無駄を極力出さない日本の着物の直線立ちに注目した。

小田が2枚接ぎのパターンを提案し、脇に縫い目がないものにし、ポケットを脇に付けることで、脇に締めまりがある印象を与えることにした。

一般的にズボンには4枚接ぎで作られる。しかし、2枚接ぎにすれば、縫い合わせる手間が省ける上に、無駄布が出ないという具体的な利点がある。のっぺりとした印象になるという欠点は、大きなポケットを付けることで解決をした。

実際のパターンは長方形に近い形で、残布はわずかである。150cm幅のデニム生地、左右2枚の身頃がとれるように設計した。

始めは柳井縞を利用した胸ポケットを付けることを構想したが、女性らしいイメージを出すためには、三角に開いた胸ぐりと袖無しのアームホールによって、胸左右部分は幅が狭くなり、ポケット用の空間がなくなった。デニム×柳井縞をコンセプトにしているために、胸に小さなエンブレムのように柳井縞を付けるアイデアもあったが、カラフルで個性的なファスナーを採用したために、バランスが悪くなり、背面中央の襟下に位置を変更した。

3) 洗い加工による伸縮率

デニムは製造過程で3パーセント程度は収縮する状態で収縮を止めて出荷している。これは、水谷がカイハラ株式会社社長に工場を案内された時に、洗いと収縮をさせる行程で聞いた情報である。しかし、今回はバイオによる洗い加工をするために、経験がなく収縮率が読めない状態にあった。



写真9 ツナギッコ試作モデル洗い前



写真10 ツナギッコ試作モデル洗い後

試作モデル（写真9）と洗いにかけた試作モデル（写真10）は、着た感じも見た感じもかなり違う印象であった。伸縮率は部位によって違いが見られた。

最近では伸縮性を出すために経緯に綿以外の糸が数パーセント使われている場合もある。今回の布は綿100パーセントではあるが、横方向より縦方向がより縮み、また、ポケットやエンブレムのない部分はある部分に比べるとより縮んだ。この縮み具合を考慮しながら、最終パターンを決定した。

ツナギッコの洗い加工は、以前主流であったストーンウォッシュではなく、バイオウォッシュと呼ばれる洗い方を選んだ。なぜなら濃紺の源布色が明るい藍色になるようにデザインを考えたからである。ツナギッコは洗った後に柔らかい風合いが生まれ、着心地が格段によくなった。

バイオウォッシュは「1988年に開発された洗い方で、セルロース分解酵素でジーンズの繊維の一部を分解して、その表面に付着しているインディゴ染料を落とし、あたかもストーンウォッシュで表面加工したような効果が得られる加工である。（中略）表面溶解効果により非常に上品なストーンウォッシュ効果が得られたのである。当時問題となっていた軽石によるストーンウォッシュの欠点を一挙に解決したようにみられ、あっという間に世界中に広まった^(注1)。」のである。

伸縮率については、柳井稿も小さく切って浸水実験をし、3%近い収縮を確認した。しかし、使用した布は小さく縫い付けられたため、ウォッシュ後もほとんど影響は出なかった。

4) グレーディングについて

グレーディングは、身長や体格などの統計的なデータをふまえて、Mサイズからパターンを展開して、細かな寸法を決定する必要がある。試着によって得た情報も参考にしながら、検証を進めた。

まず、MとLの適応身長については、株式会社ワコールが毎年データを集め分析していることから、ワコールのサイズ表^(注2)を参考にした。これによると、男性Mは165～175cm、Lは175～185cmであった。これを基準に女性のブラウジングのゆとり分の8cmを差し引いて、女性の適応範囲をMサイズ157～167cm・Lサイズ167cm以上と設定した。

次に、バスト・ウエスト・ヒップのサイズについて、ツナギッコは筒状であるため、3サイズがほぼ同じである。これは、女子のヒップの標準サイズから割り出すことにした。日本工業規格（JIS L 4005-1997）によると、9ARをバスト83、ヒップ91、ウエスト67cmと定めている^(注3)ので、ゆとりを持たせて3サイズ共通で96cmに設定した。Lサイズはピッチを8cmとって、108cmとした。伸縮率も考慮に入れている。

股下については、数社の市販のツナギのサイズ表と試着の経験から、Mサイズを66cm、Lサイズを71cmとした。ズボンの裾をロールアップして穿く人もいるので、長めに設定した。

総丈は、Mサイズ154cm、Lサイズ163cmとした。縦方向によく縮むことも予想した上で、設定した。

(4) 結論

ツナギッコの発表は、2016年10月23日長門市のルネッサ長門において、「アグリアート・フェスティバル

ル2016」の中で行った。安倍昭恵内閣総理大臣夫人がツナギッコのモデルを務めた。小田がスタイリング並びに着替えの責任者を務めた。他に2名の男性がモデルとして加わり、ユニセックスのツナギッコは全国に発信された。

セットアップには、ツナギッコと同様の柳井縞があしらわれた手ぬぐいを作った。モデルの首もとを花飾りのように飾るために、アレンジ結びをした(写真11)。

男性モデルの一人は身長が180cmあり、Lサイズのツナギッコのサイズ感とぴったり合っていた。

もう一人の男性モデルは細身で身長が172cmだったので、Lサイズを着用した。腰まわりのだぶつきを解消するためには、ウエストを締める必要があった。そこで主に女性用を想定して製品化したウエストの紐を使用した。前で結ぶと女性的になるため、背面のみに紐を通し、側面で結んだ。このアイデアは、男性にも紐の利用価値があることを証明した(写真12、13)。

ツナギッコの商品開発をするに当たり、1点もののアート作品とは異なる視点でのデザインを考える必要があると実感した。サイズ展開に耐えうるデザインかどうかの検証、製造スケジュールに沿った生地選び、資材調達、加工などの計画が必要になる。特にデニムは収縮のみならず、様々な色合いや風合いなどが多様な加工によって実現される。小さなサンプル布だけでは最終状態は全くわからない。

こうした困難さとスリルがある中、今回は非常に満足のいく結果となったことは幸いであった。大学の研

究室の実験として商品開発が実現されるのも、匠山泊や柳井縞の会を始め、産学公のスポンサーや多くの人々の協力が得られる構造が出来ているからである。

5 アグリアート・フェスティバル2016の概要

アグリアート・フェスティバル2016(詳細は最後の付録参照)における農ガールコレクションのプレゼンテーションは、共同企画及び研究をしている安倍昭恵夫人及び幅広い支持を得ているタレント、はるな愛を招いて行われた。また、モンペッコを制服として採用した仙台市の「農業で住みまず芸人キングビスケット」の参加もあった。観客として、地元以外に、関東や関西からも多数の人が駆けつけた。

今回は長門市の全戸にチラシを配布して周知したことや、地域8箇所の公民館や文化施設にて無料チケットを配布したこともあり、1週間もしないうちに700席あまりのチケットがほぼなくなってしまう程の出足であった

当日も大入り満員という盛況であった。また、毎年実施している会場ロビーでのブース展示では、地域資源を用いた工芸品や商品あるいは農産物(主にお米)、高校生の取組みなど、今までで一番参加数が多く、また活発であった。

特に、今年の実践活動としては、東芝国際交流財団の支援を得た「スーパーグローバル・ファッションワークショップ2016」がアグリアート・フェスティバルに先立ち、山口県立大学を中心に山口市内で行われた。4カ国の海外大学から先生1名と学生2名ずつの計12



写真11 ツナギッコ柳井縞手ぬぐい



写真12 ツナギッコ男性正面



写真13 ツナギッコ男性背面

名が招かれた。各大学からも作品が各4点ずつ持参されて、ロビーにて展示された。地域の方々に世界のスタンダードを紹介することができたことは大きな成果であった。

上記ワークショップでは山口市徳地手漉き和紙を中心に、重源の郷でのワークショップ、デニム製品を企画・プロダクトしている山口発ブランド匠山泊での見学・意見交換、さらに大学近くの藍場「田屋」での研修などが事前に行われた。

5カ国の若者による文化の交流は、多文化を理解するのみならず、むしろ自分の文化を改めて見直し、理解し、再評価できるよい機会になった。

6 今後の課題と願望

4年間、アグリアート・フェスティバルが開催され、農ガールコレクションで発表されたモンペッコ、サロペッコそしてツナギッコがmompekkoレーベルの元で商品開発された。これらの商品は有限会社ナルナセバのプロデュースで、店頭および通信販売が行われている。

今では、ナルナセバの店舗の他、山口県下7店での委託販売、さらには新聞社の通信販売やナルナセバの通信販売などを通じて、モンペッコが人々に普及してきた。布から織っている点でもオリジナル性が高い。デザインやパターンそしてディテールの表現について、モニタリングを行うために、県内の店舗などを訪問し、ユーザーの意見を徴収して工夫を重ねている。

パターンのデザインや生地によって、年度ごとのヴィンテージが生まれてきている。また静かなファンが出てきており、農作業着だけでなくヨガなどのスポーツや日常着としても着用されるようになってきている。

現在は、モンペッコtakijima2016の開発に参加した大学院生甲斐少夜子がラップランド大学（ロバニエミ市）に留学したために、ラップランド大学デザインショップでモンペッコが販売されるようになった。上記学生のマーケティング研究の一環で実験的に販売されている。

今年の11月8日に山口市とロバニエミ市の両市長によって、ロバニエミ市の伝統的な建物で観光パートナーシップ協定のサインが行われた。水谷はこのサインの儀式に参加し、交流会で2017年2月下旬に開催予定の「ロバニエミ・アーケティック・デザイン・ウィーク」で山口市のアート&デザインを紹介することについて、両市の協力が得られることを確認した。

アグリアート・フェスティバル2016のために開発されたモンペッコやまぐち縞cosmo2016とツナギッコを発表することになる。真冬の零下の下での展覧会であるが、フィンランドの室内はTシャツ一枚で過ごせるほどの暖房設備が行き届いたライフスタイルである。こうした中で、着心地のいいモンペッコが国内のみならず、海外にも静かに浸透していくことを祈っている。

今後の課題として、国内外へのプレゼンテーションの仕方やパッケージなど、コミュニケーション媒体についても力を入れて行く必要がある。また、展覧会とは異なり、実際のビジネスシーンとなると、ものの質とコストの関係が重要な要素となる。ブランドイメージを築きつつも、より人々に身近なものになるように、工夫を重ねて行くことが課題である。

謝辞：

上記研究は主に長門市、山口県立大学さらに、紙面のお名前には記しませんが、多くの企業や個人の皆様に御支援とご協力を頂いたおかげで実現されました。

また、東芝国際交流財団の協賛によりアグリアート・フェスティバルを国際的なステージへと盛り上げて下さいました。企画デザイン研究室の学生との国際交流を通じて多くの実りを与えて下さったラップランド大学（フィンランド）のMarjatta Heikkilä-Rastas教授、LISAA MODE PARIS（フランス）のIngrid Choquet講師、青島大学（中国）の鄭 廣澤准教授、そして慶南大学校（韓国）ク・ミラン教授および各大学の学生の皆様にお世話になりました。

とりわけ安倍昭恵内閣総理大臣安倍晋三夫人には、企画・運営、プロデュースさらにモデルとしても参加を頂きました。

最後の、この場をお借りして、今回の研究に関わって頂いたすべての皆様に心からお礼を申し上げます。

引用文献

(1)平田学園（2013）平成24年度文部科学省委託「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

「デニム・ジーンズのマーケティングの実践」
デニム・ジーンズクリエイター養成基盤整備のための教育プログラム開発と実証、学校法人第一平田学園（中国デザイン専門学校）、p69とp90-91、
www.24monka-itaku.net/consortium/user5_6_01_marketing.pdf 2016年11月12日取得。

(2)ワコール「下着の基礎知識」、株式会社ワコール、
www.wacoal.jp/top/sagasu/knowledge/cw-xm.html、
2016年11月12日取得。

(3)文化ファッション大系服飾造形講座1
「服飾造形の基礎」文化服装学院編、p68-70、2000年。

■資料および写真リスト

- 資料1 やまぐち縞raita2014
- 資料2 やまぐち縞takijima2015
- 資料3 やまぐち縞cosmo2016
- 写真1 モンペッコcosmoファイブ
- 写真2 モンペッコやまぐち縞raita2014
- 写真3 モンペッコやまぐち縞takijima2015
- 写真4 モンペッコやまぐち縞cosmo2016
- 写真5 モンペッコやまぐち縞cosmo2016男性モデル
着用
- 写真6 柳井縞糸
- 写真7 柳井縞
- 写真8 ツナギッコファーストモデル
- 写真9 ツナギッコ試作モデル洗い前
- 写真10 ツナギッコ試作モデル洗い後
- 写真11 ツナギッコ柳井縞手ぬぐい
- 写真12 ツナギッコ男性正面
- 写真13 ツナギッコ男性背面

■撮影者リスト

- 写真1～写真5、写真11～写真13：
志賀 敏彦 (Baku PHOTO OFFICE)
- 写真6～写真10：小田 玲子

付録：

アグリアート・フェスティバル2016「自然との対話」プログラム



日時 2016年10月23日(日) 14:00 開場 15:00 開演

場所 ルネッサながと

13:00～17:30

ロビー展示(作品展示、ブース販売など)

※開演中は販売を一時中断する場合がございます。

企画運営 | 安倍 昭恵×荒川 祐二×大谷 祥子×水谷 由美子
山口県立大学企画デザイン研究室
主催 | アグリアート・フェスティバル2016実行委員会
共催 | 長門市

協賛 | 東芝国際交流財団
アルソア本社 株式会社 ARSOA
東海・経営と心の会

あいさつ

安倍 昭恵

〈名誉理事長 内閣総理大臣安倍晋三夫人〉



高度経済成長期に、地方で暮らしていた方々は、進学や仕事を理由に都会で暮らすようになり、その結果、昨今では都市部の人口が増加し、地方の過疎化が進みました。近年、日本の社会が成熟し、私たちの価値観は変わり、一部の若者たちの間では、自然に囲まれながら、ゆっくりとした時間の流れを楽しむ生活に憧れを抱くようになりました。そして、地方へ移住して、農業、アート、伝統工芸、ハイテク分野などの仕事に従事されるようになりつつあります。実際に、山口県向津具半島では、他県から若者の移住が進み、人口が増加していると聞いています。

私は、これからの時代、人は自分らしく生きるために、多様な暮らし方があってよいのではないかと思います。そうすることによって、人は自分らしく暮らし、その生活に幸せを感じ、争いの生じない平和な社会を築くことができるのではないのでしょうか。

本アグリアート・フェスティバルでは、参加されている皆さんとともに、自分を見つめ直し、自分らしい暮らし方を探してみるきっかけを作ることができればと思います。

江里 健輔

〈理事長 公立大学法人山口県立大学理事長〉



今や長門市の年中行事となりましたアグリアート・フェスティバル（AAF）が、本年はルネッサながとで開催されます。今年は一歩と華を添える結果となりました。今回は、フィンランド「ラップランド大学UOL」、フランス「LISAA MODE PARIS」、中国「青島大学」、韓国「慶南大学校」からそれぞれ教員と学生を招待し、国際色豊かなフェスティバルとなります。

AAFは2014年より山口県立大学国際文化学部長水谷由美子教授と安倍昭恵氏（内閣総理大臣夫人）の共同により開催されるようになり、長門市の主な第一次産業である農業と地域創生を目指している「農ガールコレクション」であります。華やかに繰り広げられるファッションを中心とした数々の催しを満喫して下さることを期待しています。

大西 倉雄

〈理事 長門市長〉



このたび「アグリアート・フェスティバル2016」が安倍昭恵内閣総理大臣夫人をはじめ、多くの方々のご尽力により、ここ長門市で盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

特に今回は、より多くの皆さまに観覧いただくことを念頭にルネッサながとで開催することとしたところで、古典芸能に特化した本施設において、このイベントを更にお楽しみいただけるものと考えております。

現在、日本の農業を取り巻く環境は極めて厳しく、とりわけ担い手不足は喫緊の課題となっています。今回の取り組みにより、若い世代の方々に農業へ興味目を向けていただくと同時に、本市の進める成長戦略事業の一環である自然栽培米などの試みをお知りいただくことを、期待しているところです。

更に、平成31年度には、本市において棚田サミットが開催される予定であり、これに繋ぐための事業として本フェスティバルのご成功と、本日お集まりの皆様方のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉とします。

水谷 由美子

〈実行委員会委員長 山口県立大学国際文化学部長・教授〉



安倍昭恵夫人と山口県立大学企画デザイン研究室が共同研究として開始し、多くの協力者とのコラボレーションへと成長しました。その中でも農ガールコレクションのために開発された農作業着「モンベッコ」は商標「mompekkko」の元で、全国に浸透しつつあります。すでに全国の農業者や農業愛好家のワーキングウェアや一般の方の生活着として少しずつ普及し着用されています。格言「継続は力」の実践的な活動の結果です。

このイベントは、プロとアマチュアの境なく地域の農業文化と産業の活性化、地域と都市のコミュニケーション、さらに国際交流などを目指した年に1度の祭典です。プロの方のボランティア参加によりイベントの質や評判が高まっています。最後に、地域内外のプロとアマを問わず、このイベントに参加して下さったすべての皆様にご場をお借りして心から感謝申し上げます。

プログラム

アグリアート・フェスティバル2016 ～自然との対話～

2011年の東日本大震災をきっかけに、人と人との絆や自給自足の生活への関心が高まり、農業への新たな志向が生まれています。安倍昭恵内閣総理大臣夫人もこの頃、有機農業によるお米作りを始めました。その時、昭恵夫人から山口県立大学企画デザイン研究室の水谷由美子教授に、若者が農業に興味を持つような農作業着の開発をしないかというお誘いがありました。そして、2013年、農業振興や地域創生を目指し「農業スタイルコレクション」を長門市で開催しました。2014年には「アグリアート・フェスティバル」と改名し、今回で4回目を迎えます。毎回、全国あるいは世界で活躍するモデルやタレント、アーティストの皆様にごイベントの趣旨に賛同して頂き、パフォーマーとして駆けつけてきて頂いています。

私達は、東日本大震災や熊本地震の経験から、自然の脅威を身近に感じています。一方で、農業を通して自然から多くの恵みを得ています。今回は「自然との対話」をテーマに、前半では本当の豊かな暮らしについてトークショー、そして後半は農ガールコレクションを開催します。

あいさつ

江里健輔理事長 大西倉雄理事 安倍昭恵名誉理事長

トークショー

「仙台市とモンベッコを着た農業で住みます芸人」プレゼンター：キングビスケット（藤城 翔威 平井 夏樹）
佐藤 能夫（仙台市経済局農林部長）

「本当の豊かな暮らしとは何か？」パネラー：安倍 昭恵
井上 かみく（百姓庵 女将,最先端田舎暮らし発信人）
谷尻 誠（建築家 SUPPOSE DESIGN OFFICE Co.,Ltd.代表取締役）
モデレーター：水谷 由美子

舞と箏の競演

舞：藤間 信乃輔 箏：中井 智弥 曲：紅蓮の炎 花のように

農ガールコレクション

Part 1 神々との対話

五穀の源流 — アマテラス・ツクヨミ・スサノオの神々 和紙, デニム, 柳井縞, インドシルク

太陽神アマテラス・月の神ツクヨミ・オロチ退治で有名なスサノオの3兄弟は、皆共通して五穀の起源に関わっている。連綿と続けられてきた稲作文化の源流となる神々をテーマに、地域資源のコラボレーションとして表現した。

デザイナー モデル

水谷 由美子 安倍 昭恵
小田 玲子 竹部 徳真
合田 光汰

風神雷神 和紙, 墨, ベンガラ, 蠟

自然神の姿を象る風神雷神。風神は和紙で空気の流れと絶対的強さを、墨で描いた「慈」で天からの恩恵を宿した。雷神は蠟で加工した和紙で稲妻の力強い模様を造り出し、ベンガラの色で美しさを表した。自然の脅威と恵の象徴として表現する。

宮坂 莉穂 渋谷 太久郎
下川 まつゑ 有田 和永

タイリョウの喜び 大漁旗, デニム

普段の生活の中にある喜びや祝いを表現した作品である。長門の海を眺めた時、その神々しさに感動を受けた経験からインスパイアを受けた。2着で1つの意味を持つ作品となっている。

白井 香澄 堀 綾華
向井 夕菜

Part 2 自然に育まれる人間とその生活 ~Nature Nurturing Human and His or Her Life~

SGFWS 2016

モデル：齋木 奈央 好本 ナオミ 岩瀬 美月 深川 絵里

スーパーグローバル・ファッションワークショップ(SGFWS)2016 5カ国の若者の共創「自然に育まれる人間とその生活」について

今年、ヨーロッパからフィンランド「ラップランド大学(UOL)」、フランス「LISAA MODE PARIS」、そしてアジアから中国「青島大学」、韓国「慶南大学校」のそれぞれ教授1名、学生2名をご招待。10月17日～21日までの間、山口市を舞台として「自然に育まれる人間とその生活」をテーマにしたワークショップを開催し、服飾作品を制作した。

ワークショップのための研修
 着物着付け講座（講師：西脇 末美）、藍染研修（藍場田屋）、手漉き和紙体験（重源の郷）、デニム工場見学（匠山泊）

ワークショップ企画マネジメント・ディレクション：水谷 由美子

ゲスト教授・ディレクション：Marjatta Heikkilä-Rastas(UOL) Ingrid Choquet(LISAA) 鄭 廣澤(青島大学) Mi-Ran Koo(慶南大学校)

デザイン & 制作：Annariina Linnea Ruokamo Elina Kristiina Ahola (UOL)

劉 曉慧 王 中燕 (青島大学)

Hyeon Seog Kwon Juhee Park (慶南大学校)

Matthieu Arbelot Anne Barraud (LISAA)

小田 玲子 原田 章子 荒木 麻耶 加藤 史織 白井 香澄 手嶋 優衣 渡辺 詩織

下川 まつゑ 宮坂 莉穂 野坂 光里 河村 早紀 (山口県立大学)

Part 3 山口県立大学企画デザイン研究室 presents

五穀豊穡 デニム, やまぐち綿takijima2015

田植え衣装から着想を得て、現代の早乙女としてデニムとやまぐち綿takijima2015を用いてデザインした。早乙女特有の鮮やかな色合いと華やかさを残しつつ、スカートとパンツスタイルで5つのバリエーションをつけた新たな早乙女衣装を提案する。

デザイナー モデル

下川 まつゑ 坂上 留美
坂 華美
鈴木 沙江
稲葉 阜
岡山 希

モンベッコやまぐち綿takijima秋冬アレンジ デニム, やまぐち綿takijima2015

モンベッコやまぐち綿takijimaを普段は農作業着として着用しているキングビスケットの2人。日常着として、モンベッコを秋冬でもカッコよく着られるよう新たな提案を行う。

荒木 麻耶 藤城 翔威
平井 夏樹

Asian Workwear デニム

稲作が盛んなアジアの国々を連想させる農作業着をデザインし、サロベットの上半身にはドレープを入れ、アジアの民族衣装に見られるゆったりとしたシルエットを表現した。また、長門の美しい棚田風景をイメージした模様を描いた。

河村 早紀 三浦 ひかり
久保田 陽奈

アグリたんけんたい デニム, 玖珂綿

山口県にやってきた農作業体験をする観光客の家族をイメージし、農作業着の機能性の面だけではなく、街着の要素を加えることにより様々なシーンに活用できるデザインを目指した。

渡辺 詩織 セネック アンドリュー
セネック 英花
セネック 日向

urban agri デニム

「農作業着のまま街にいける服」をテーマに製作した。女性らしい日焼け防止効果と、動きやすい機能的なシルエット。山口で採れる野菜から考えられた、彩色のデザイン。服装から農業の古いイメージを払拭したい。

宮坂 莉穂 山邊 愛理
別府 空見子

デニムで畑デビュー デニム, 柳井綿

みんなで畑を借りて畑デビューする時に、お揃いの服があったらやる気も上がるはず。簡単に縫える2枚ハギのサロベットを実際に畑をやっている主婦グループの方に着てもらい、改良した。お古もリメイクで有効活用。

小田 玲子 飛田 明美
藤村 美沙
山田 瑞貴



<p>A girl in 60's デニム</p> <p>戦争が終わり若者が自由にファッションを表現しはじめた60'sをテーマにした。パンツロンやボタンダウンシャツを、動きやすく、作業しやすいように工夫した。60'sを感じさせるファッションナブルな今までにない農作業着になっている。</p>	<p>デザイナー 野坂 光里</p>	<p>モデル 小松 奈保子 濱田 光衣</p>
<p>WHITE OKRA's デニム,柳井縞</p> <p>白オクラをモチーフにした作品。白オクラの特徴である丸みを帯びたフォルムや粘り気の強さ、白みがかかった色などを盛り込んでいる。今季のトレンドを取り入れることで、若い女子にむけた農作業着となっている。</p>	<p>白井 香澄</p>	<p>伊藤 瑛美 平野 和 岩佐 知香</p>
<p>サムエブロン デニム,柳井縞,会津木綿</p> <p>禅宗の僧侶が雑事の際に着ている作務衣から着想を得た作品。家庭菜園で育てた農作物をメニューに取り入れ、飲食店を経営する親子と従業員がモデル。3タイプのシリーズで仕事内容や機能に合わせて作業服を使い分けることが出来る。</p>	<p>手嶋 優衣</p>	<p>木下 瞳 清水 彩花 劉 蕾</p>

Part 4 mompekkolabel モンペッコ・ツナギッコ コレクション2016

モンペッコやまぐち縞cosmo2016

デザインディレクション：水谷 由美子 テキスタイルデザイン・スタイリング：荒木 麻耶 プロダクト：合資会社ローリング 匠山泊 服飾デザイン・モデリング：企画デザイン研究室	モデル：大西 倉雄 三好 沙智子 廣田 晃子 平田 実香 重廣 優美 竹部 徳真 合田 光汰 特別ゲストモデル：はるな愛
--	---

ツナギッコ デニム,柳井縞

生活のあらゆるシーンで気楽に着られるユニセックスのつなぎ。直線立ちで、脇線のない2枚仕立てのシンプルな構成。地域資源である手染め手織りの柳井縞とのコラボレーション商品。

デザインディレクション：水谷 由美子 プロダクト：柳井縞の会匠山泊 服飾デザイン・モデリング：小田 玲子 スタイリング：小田 玲子 荒木 麻耶	モデル：安倍 昭恵 田島 大幹 小川 龍
--	-------------------------

フィナーレ

スタッフ

総合ディレクター・服飾 デザインディレクション 作曲・音楽監督 舞台・照明・舞台美術 ステージング ヘアメイク 映像撮影 写真撮影 演出補佐 グラフィックデザイン MC 運営スタッフ スタッフ	水谷 由美子 田村 洋(作曲家 山口県立大学名誉教授) 株式会社やの舞台美術 REI・KO (Studio Ray / リル・レイ・ダンススタジオ) Family TAKAKO: TAKAKO 井手 弓 サロン・ト・エミール: 西脇 末美 三牧 弘子 忠恵 彩乃 長原 麻由美 東亜大学: 海井 美紀(講師) 大石 晋大 上村 美乃 鴻上 藍 筒井 結希 山口メディア研究所 志賀 敏彦(Baku PHOTO OFFICE) 荒木 麻耶 加藤 史織 宮坂 莉穂 手塚 茜音 小田 玲子 原田 章子 荒木 麻耶 加藤 史織 白井 香澄 手嶋 優衣 渡辺 詩織 下川 まつゑ 宮坂 莉穂 野坂 光里 河村 早紀 手塚 茜音 中野 汐里 黒田 祥歩 櫻木 祥 綾部 美幸 佐藤 千秋 廣本 理沙 嶋田 優香 高松 ひとみ 古澤 萌 川口 千穂 木下 茉優 秋山 鈴翔 石川 瑛理奈 北谷 緑 遠山 優香 棟久 佑子 山田 衣織 高橋 潤一郎
--	---

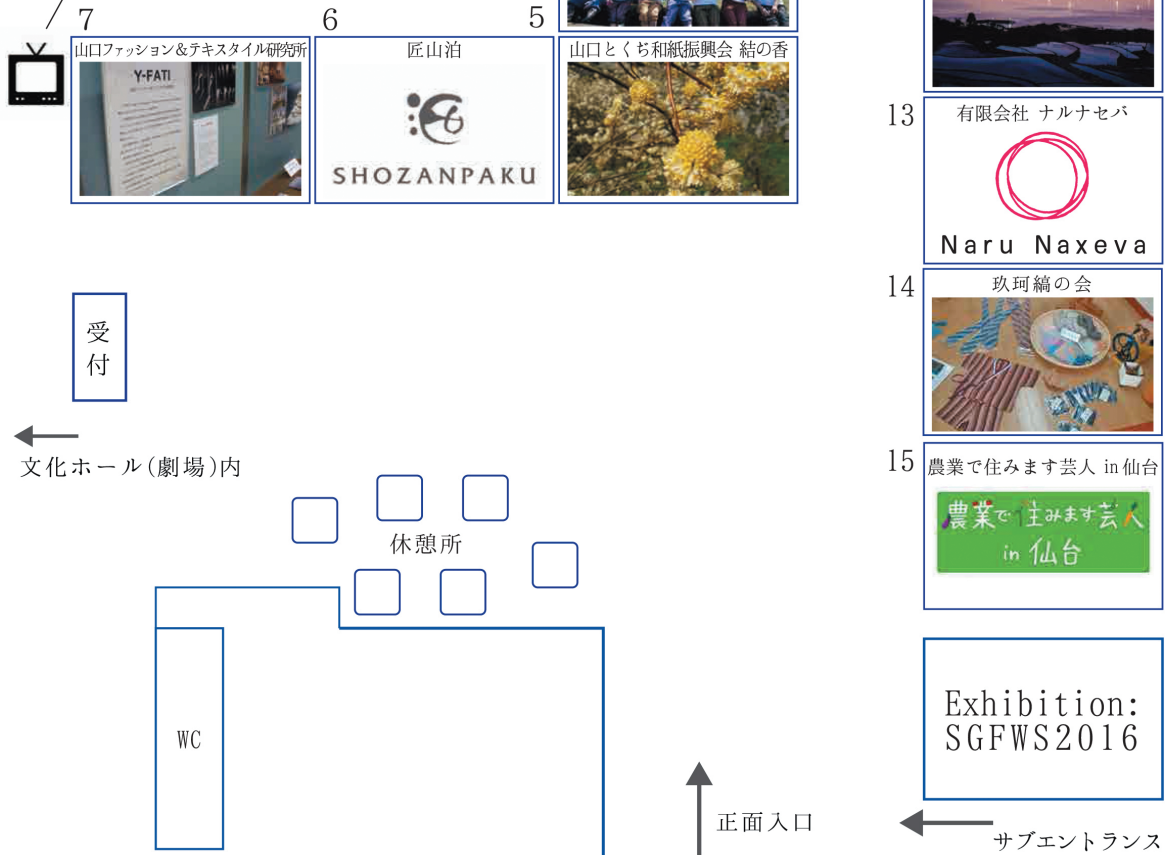


ロビー展示 案内図

13:00～17:30
作品展示、ブース販売等

※開演中は販売を一時中断する場合がございます。

こちらのモニターにて
劇場内の様子をご覧頂けます。



■ Exhibition: スーパーグローバル・ファッションワークショップ (SGFWS)2016 参加大学の作品

フィンランド「ラップランド大学」
中国「青島大学」
韓国「慶南大学校」
フランス「LISAA MODE PARIS」
日本「山口県立大学」

■ Exhibition booth: 15グループの作品・商品

1. 徳地手漉き和紙(山口市地域おこし協力隊)

柔らかくしなやかな紙から、野生的で力強い紙まで、徳地手漉き和紙の手触りを体験しにきてください。レアな和紙も限定販売します。

▶ 和紙及び和紙加工品

2. ジャポニスム振興会

「日本のこころと文化」を見直す機会を提供し、それらを未来に向かって進化・発展させる「ジャポニスム振興会」の活動を通じて“誇り高き日本人づくり”をめざします。

▶ 会報誌配布、書籍およびCD販売

3. 合資会社 ロオーリング

『ROORING®』は、人と人との温もりにあふれた人生を歩む、本当の個性を培ったあなたに、永く使ってもらいたいという願いを込めています。

▶ 帽子、マフラー、シャツ等

4. おんなたちの古民家&株式会社 Archis

歴史的・文化的価値のある古民家の再生をはじめ、6次産業商品の開発・ブランディング、また地域の特産品を国内外に発信する地域商社です。「モチベッコ」と田楽米の焼酎ケーキを限定販売します。

5. 山口とくち和紙振興会 結の香

山口とくち和紙振興会結の香は2014年に結成された任意団体です。伝統的和紙を未来に繋ぐことで、和紙による地域活性化を目指して活動を行っています。

▶ 和紙照明、ランチョンマット、葉書等

6. 匠山泊

匠山泊は日本の感性表現と表現加工技術を商品化するために、日本中から選抜された「もの作り」のサムライ達のプロジェクトブランド・チームです。

7. 山口ファッション&テキスタイル研究所 Y-FATI

徳地和紙や柳井縞などを用いた作品のパネル展示を行い、地域資源を活用した服飾に於ける新たな可能性をご紹介します。

8. 山口県立厚狭高校

柳井商工高校(柳井縞反物制作)×厚狭高校(デザイン・縫製)の連携による創作ドレスです。伝統継承と新たな可能性を求め、高校生の瑞々しい感性で縞柄を活かした作品となっています。

9. 山口県立柳井商工高等学校

本校は柳井縞の普及と伝統継承を目的に活動を行っています。本校が製作した小型機織機による機織体験、SOU-SOU / 周南和裁服装学院 / 柳井商工高校がコラボレーションした柳井縞単衣の展示をします。

10. 柳井縞の会

現在の『手織り柳井縞』は幻となっていた織物を有志により23年前に再復興したものです。素朴な手織りの風合いをお楽しみ下さい。

▶ ベスト・帽子・リュックサック・小銭入れ等

11. 宇津賀地区まちづくり協議会

元乃隅稲成神社のパワーを秘めた宇津賀の地で生まれた竹を、手作りの窯で仕上げた竹炭と竹酢液。その竹炭と、生命力に満ちた土地から産出されるゼオライトでつくった吸着パックです。

▶ 「幸乃炭美成」竹炭・竹酢液、ミネラルウォーター吸着パック

12. 東後畑営農組合

東後畑で育った“海と太陽と水の恵み”。自然のままに、自然が育んだ、お米です。毎日たべたくなる、体にやさしいごはんを、どうぞご賞味ください。

▶ 自然栽培米

13. 有限会社 ナルナセバ

モンベッコやサロベッコのほか、やまぐち縞を用いた手ぬぐいなどの販売を行います。ショー終了後は、「モンベッコやまぐち縞 cosmo2016」「ツナギッコ」の販売を開始いたします。

14. 玖珂縮の会

1749年開光寺住職富山秀意師が、「玖珂縮」を世に普及させた。1996年玖珂縮の会を結成し、伝統技術の復興を図るべく縮織教室、新商品開発活動している。

▶ ネクタイ、ポーチ、カードケース等

15. 農業で住みます芸人 in 仙台

若手芸人が農業や地域での活動を通じて「ありのままの農家や地域の姿」を発信！「住民協働型」の地域活性化による「地方創生」を目指しています。

▶ 仙台坪沼米、仙大豆(ソイチョコ、ソイコロ)、野菜

《協賛》アルソア本社 株式会社

受付にてARSOA製品サンプルとリーフレットを配布します。
〒408-8522 山梨県北杜市小淵沢町2961
TEL:0120-301-742 (お客様相談室)
<http://www.arsoa.co.jp/>

ARSOA



mompekkko

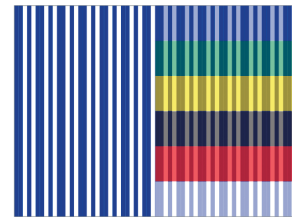
安倍 昭恵 × 山口県立大学企画デザイン研究室 × (有)ナルナセバ プロジェクト

当プロジェクトは、安倍昭恵内閣総理大臣夫人が下関で米作りを始められた際、農作業時に若い女性がオシャレに着られる服がない事に気づき、山口県立大学企画デザイン研究室水谷由美子教授に農作業着の共同開発を提案した事に始まる。

日本の伝統作業着「もんぺ」を現代のライフスタイルに寄り添った形に改良した「モンベッコ」。最大の特徴はオリジナルのやまぐち縞をデザインし、生地から作っていること。織元は日本3大緞の1つである久留米緞の織元。職人が織った生地は優しく柔らかい肌触りとなっている。日本の伝統織物を持続可能なものへと再生していくためのメッセージとして、今回も山口オリジナルの縞柄を提案する。

やまぐち縞cosmo2016

日本の伝統的な縞模様の特徴として、縦糸に藍色系が使われていることが多く、山口で栄えた伝統織物、柳井縞の特徴も藍色が基調となっている。そこで、cosmo2016は藍色系を経糸にデザインし、緯糸にはアジアの伝統生活文化に深く影響を及ぼしている中国古代哲学の陰陽五行説の5色(青・赤・黄・白・黒)を使用した。この5色によって幸せがもたらされるとも考えられているため、五穀豊穡や幸せをもたらすモンベッコの生地としてデザインした。古い日本語において緑も「青(あを)」と指していたことから、今回の開発では緑と青を取って2色にして開発し、また5色(ここでは緑の糸使用)すべてが入っている生地を追加した結果、モンベッコは7色展開で開発されている。



▲ 経糸 ▲ カラーイメージ

これまでの縞

やまぐち縞raita2014

2009年より、山口県立大学企画デザイン研究室はフィンランド国立ラップランド大学と合同研究を行っている。そのフィンランドの民族衣装に見られる伝統縞と山口県の伝統織物である柳井縞・玖珂縞を掛け合わせた縞である。「raita」はフィンランド語で縞を意味する。



やまぐち縞takijima2015

日本の伝統縞文様の中に、「滝縞」がある。暑い夏に目で‘涼’をとる日本人の知恵である。また、自然界に存在するものには無秩序に見えて実は秩序ある規則が見られる。植物の花びらの数や枝別れて出る葉の数のように一定の規則「フィボナッチ数列」を配している。日本の伝統文様の中に自然界の数美学を掛け合わせ、涼しさと美しさを融合した縞である。



有限会社 ナルナセバ

2014年10月山口県立大学企画デザイン研究室とのコラボレーションにより新レーベルmompekkkoを発表。1次産業から6次産業までの農業を視野に、企画デザイン研究室のサテライト研究室として作業着の開発販売を行う。舞台衣装、ダンス衣装および各種アパレルや小物のデザイン販売も行う。

右の写真は、古民家を活用したアトリエ兼店舗。
〒753-0093 山口市大殿大路246-1 TEL:083-934-5566



mompekkko 取扱店

オンラインストア
STORES
<http://www.taiishokan.jp/>

装の店 さんわ
美祢市美東町真真西区247-1
TEL:08396-5-0205

円座
山口市小郡円座東町18-8
TEL:083-972-4556

百姓庵
長門市向津具下1098-1
TEL&FAX:0837-34-0377

ギフトギャラリー-OZ新下関店
下関市伊倉新町2丁目2-11
TEL:083-250-7345

ギフトギャラリー-OZ山口店
山口市維新公園5丁目1-15
TEL:083-934-3670

KULABO大正館
長門市東深川1904-1
TEL:0837-22-2930

mompekkko公式HP
<http://mompekkko.com>



ゲストプロフィール

■ 特別ゲスト

はるな愛 〈タレント、歌手、実業家〉



松浦亜弥の口パクモノマネ（エアあやや）で大ブレイクし、2010年には『24時間テレビ』で初のニューハーフのマラソンランナーとして完走。ニューハーフの世界を決める大会『ミス・インターナショナル・クイーン2009』で優勝した経歴も持つ。また、ANGEL LOVE株式会社代表取締役として2012年10月現在、鉄板焼屋など飲食店4店舗を経営。現在、数多くのテレビ番組に出演中。

■ パフォーマー

藤間 信乃輔 〈紫派藤間流師範〉



石川県金沢市在住。8歳より藤間勘紫乃師に日本舞踊を学び、1994年家元より藤間信乃輔の名を拝命、1997年師範となる。現在は日本舞踊の公演を中心に、様々なジャンルとのコラボレーションを意欲的に取り組み、東京歌舞伎座、伊勢神宮、パリなど、国内外で活躍中。京都造形芸術大学講師や映画俳優もつとめるなど近年活動の場を広げている。

中井 智弥 〈二十五絃箏・箏・三絃演奏家、作曲家〉



東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。伝統的な箏や地歌三絃の演奏も行いつつ、音域を広げた「二十五絃箏」の演奏をメインに活動。二十五絃箏の第一人者と表現の追求を行っている。Eテレにて「おかささんといっしょ」「花鳥風月堂」等に出演。海外文化交流として外務省・国際交流基金・大使館等に派遣され、国際的に活躍している。

■ パネリスト

井上 かみ 〈百姓庵 女将,最先端田舎暮らし発信人〉



1972年福岡県北九州市小倉生まれ。大手旅行会社で全国トップセールスをおさめた後、結婚を機に、2004年より長門市に移住。『百姓の塩』を夫婦で製造販売。取扱店舗は県内を中心に100店舗以上。次世代に渡って環境を守り、地域住民が還元を受け、豊かな暮らしを創る循環型観光『向津具エコツーリズム』の実践に向けて有志たちと現在奮闘中。

谷尻 誠 〈建築家 SUPPOSE DESIGN OFFICE Co.,Ltd.代表取締役〉



1974年広島生まれ。2000年建築設計事務所SUPPOSE DESIGN OFFICE設立。広島・東京の2カ所を拠点とし、共同代表の吉田愛と共にインテリアから住宅、複合施設など国内外合わせ多数のプロジェクトを手がける傍ら、穴吹デザイン専門学校特任講師、広島女学院大学客員教授、武蔵野美術大学非常勤講師、大阪芸術大学准教授なども勤める。

■ プレゼンター

キングビスケット 〈2016年度総務省「地域おこし協力隊」の仙台市「農業協力隊員」兼 芸人（よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属）〉



2016年4月から“農業で住みます芸人”として仙台市に在住。農業で住みます芸人とは、若手芸人が1年間農家に住み込み、農業活動・地域活動を通じ『農業の魅力とは?』『この地域の魅力とは?』をテーマに『ありのままの農家や地域の姿』を発信、同時に『若い人たちに、これからの農業のスタイル』を提案する企画。

企画者プロフィール

安倍 昭恵 〈名誉理事長、内閣総理大臣安倍晋三夫人〉



聖心女子学院幼稚園から高等学校卒業。聖心女子専門学校英語科卒業。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了。株式会社電通新聞局を経て1987年安倍晋三氏と結婚。ランニング、ゴルフ、お米づくり、雑刀が趣味。

荒川 祐二 〈作家、小説家〉



1986年3月25日生まれ。上智大学経済学部経営学科卒業。日本一汚い場所新宿駅東口の掃除をたった1人で始め、半年後には総勢444人を集める。現在は小説家業を行う一方で、全国の学校・教育機関を中心とした講演活動、イベント、メディア出演等、様々な活動を行っている。

大谷 祥子 〈ジャポニスム振興会副会長〉



東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。平成25年度第68回文化庁芸術祭新人賞受賞。古典邦楽のみならず、様々なジャンルのアーティストと競演、全国でコンサート活動を展開。僧侶としての活動の場も広げている。

水谷 由美子 〈実行委員会委員長,山口県立大学国際文化部長・教授〉



お茶の水女子大学大学院家政学専攻研究科修了。山口の地域資源を活かし、服飾デザインを通して地域のブランディングや商品開発について産学公連携による研究創作を行っている。また、サービスデザインの手法を取り入れた、持続可能なデザインアプローチを行う。企画デザイン研究室主宰。

企画デザイン研究室



〈大学院国際文化研究科〉
小田 玲子・甲斐 少夜子・原田 章子・荒木 麻耶
〈国際文化学部文化創造学科〉
加藤 史織・白井 香澄・手嶋 優衣
河村 早紀・下川 まつゑ・野坂 光里・宮坂 莉穂

《 アグリアート・フェスティバル2016理事会・実行委員会 》

理事会

名誉理事長 安倍 昭恵
理事長 江里 健輔
理事 大西 倉雄
村岡 富士夫 (NPO法人ゆや棚田景観保存会理事長)
三村 建治
藤井 哲男 (会計担当 公立大学法人山口県立大学事務局長)

実行委員会

実行委員長 水谷 由美子
実行委員 堀 俊洋 (長門市企画総務部企画政策課)
木村 好博 (長門市経済観光部農林課)
鮎川 建司 (安倍昭恵グループ)
岡部 泰民 (山口県繊維加工協同組合理事長)
吉村 勝 (岩国西商工会)
西山 佑太 (岩国西商工会)
石田 忠男 (柳井縞の会 会長)
豊川 育子 (玖珂縮の会 代表)
木村 和枝 (山口とくち和紙振興会 結の香 会長)
西脇 未美 (日本美容技能協同組合着付部会長)
浅田 陽子 (山口ファッション&テキスタイル研究所長)
荒木 麻耶 (有限会社ナルナセバ代表取締役)

《 協力 》

ルネッサながと 山口市 山口県立大学 ラップランド大学 青島大学 慶南大学校 LISAA MODE PARIS
ジャポニズム振興会 仙台市 懶よしもとクリエイティブ・エージェンシー 有限会社ナルナセバ
山口ファッション&テキスタイル研究所Y-FATI 船村秀子 藍と愛の会 有限会社桑田製帽所 千々松 哲也
原田株式会社 阿武 美波 猪熊 佳恵 植木 智恵子 木下 瞳 山本 若菜

《 寄付 》

田中 奈津子

《お問い合わせ先》

アグリアート・フェスティバル2016実行委員会事務局
〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1
山口県立大学国際文化学部事務室(担当:水谷)
TEL: 083-928-3423 E-mail: myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp